元旦の上賀茂神社。昨年の台風の倒木を燃やす豪快な焚き火。

暮らす旅　京都

年越し竹とり物語

文・写真／松岡伸吾（暮らす旅舎）

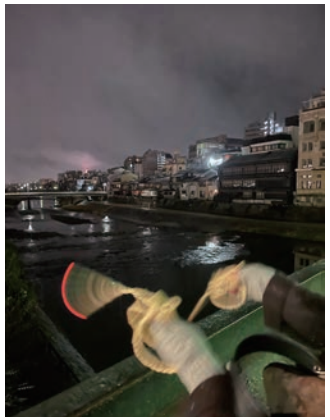
東京と鎌倉を除けば、多くの月日を過ごしてきた京都だが、年越しするのは初めて。大掃除を終え、正月飾りやお餅をそなえて、29日に京都へ旅立った。

帰省客のピークなのか、ようやく予約できたのは新横浜発午後3時の新幹線。オミクロン株が増えているとはいえ、1年前ののぞみとは大違いの混雑だった。

京都のホテルも街の人出も、ほぼ2年ぶりの賑わいだが、寒い！　馴染みのお店や友人を訪ねて、いよいよ年越しの京都が始まった。

大晦日の朝、河原町通りに雪が舞う。偶然だが、前夜の忘年会で話題に出た雪の金閣寺を見ることに決めた。市バス205に乗って金閣寺道に着くころには、牡丹雪と呼んでいいのか、大きな雪片が空も道路も建物も真っ白に覆ってゆく。

雲間に透ける太陽が金色に輝く金閣の鳳凰に重なり、舞い散る雪が画面を埋めつくす。よい写真が撮れたのだが、金閣寺は掲載不可なので、残念ながらお見せできない。



鴨川にかかる四条大橋。火縄を回して歩けば、気分はかなり京都人。

祇園にある八坂神社の境内。おけら詣りのための灯籠は大晦日のひと晩だけ灯される。

1934年に岩清水八幡宮の隣に建てられたエジソン記念碑。現在の碑は1984年に建て替えられたもの。

蒔絵象嵌の漆の燗鍋は北九州の芦屋で作られたものだという。

夜は某カメラマン宅で手づくりおでんをご馳走になり、午後10時過ぎに八坂神社に向かう。年越しのメインイベントといえば、やはりおけら詣り。屠蘇散にも含まれるキク科の薬草、白朮（おけら）を燃やし邪気を払う神事だ。煙から独特の芳香がたつ灯籠から、火もちの良い竹の繊維で編んだ吉兆縄に火をつける。消えないようにくるくる回して持ち帰り、昔はかまどに火をうつし、一年の無病息災を願った。かつては京阪電車にも乗れたが、もちろん今は禁止。おでんのお礼に火縄を届けて、新年を迎えた。

元日は下鴨、上賀茂をめぐり、夜は紫竹に住むお茶の師匠、中山福太朗宅を訪ねる。桃山時代の蒔絵象嵌の燗鍋が和ろうそくの灯りのもとでいっそう美しく、お酒も美味しくいただき、抹茶を二服点ててもらった。

二日目は石清水八幡宮へ。境内のエジソン記念碑で、発明王の電球のフィラメントに使われたのが、ここの竹だったことを知った。おけら火と電球をつなぐ竹の物語。そういえばかぐや姫を宿した竹も光ってたっけ。